

第3回新宿区文化芸術振興会議（第5期）議事要旨

■開催日時 令和元年7月9日 午後2時から午後4時まで

■開催場所 新宿区立漱石山房記念館講堂

■出席者

委員 高階秀爾 星山晋也 松井千輝 松島貴美子 的場美規子 大野順二
中島隆太 大和滋 舟橋香樹（欠席 垣内恵美子 岡室美奈子）

*敬称略、文化芸術振興基本条例に規定する分野別の順(会長・副会長を除く)

事務局 菅野文化観光産業部長 小泉文化観光課長 原文化観光係長 加藤

■議事の進行

1 開会

- (1) 高階会長が文化芸術振興会議の開会を宣言し、開会した。
- (2) 本日の進行について、次第に沿って進行することを確認した。

2 議事（要旨）

- (1) 前回会議の内容について
資料1に基づき、前回会議（平成31年3月25日開催）の内容の確認を行い、資料のとおり承認を受けた。
- (2) 報告事項
「私たち区民」による文化芸術振興の重点項目に関する主な取り組みについて資料2-1及び資料2-2に基づき、事務局が説明を行った。
- (3) 調査審議事項
第5期調査審議事項について資料3、資料4-1、4-2に基づき、事務局より説明した。
- (4) 意見交換
- (5) その他

【以降、意見交換】

・モニュメントとしてゴジラをつくったらという話が前回出ていたが、具体的に何か進んでいるか。

・（事務局）ARを活用して、東宝とコラボレーションをしていく話をしたが、やはりモニュメントがあるといいということ。

・ターミナル駅を出た人が、すぐここに行けばいいというような場所について、具体的にどこか考えているのか。

- ・（事務局）まだ進んでいない。ゴジラなどのキャラクターを使用すると、著作権の問題とか、かなり経費がかかるというのと、モニュメントを置く際にいろいろなところで協力をいただかなければならない。区の公共施設は、スペースがないということもある。あと、駅前に区の土地がないので、取り組みが難しい。今後はもしできるのであれば、民間の方々の協力をいただいて、行っていかなければならないとは思う。

- ・外から来る方にとっては、目印となる場所がすぐわかって、観光案内所がすぐそばにあるというようなことがわかれば、非常に集まりやすい。具体的にどうするか、うまく進めていただきたいと思う。

- ・ここから意見交換に入りたい。

- ・情報発信基盤の整備と企画連携は、具体的に難しい問題だと思うが、今資料を見ていて、このフィールドミュージアムについて、文化施設の連携というところで、横のつながりはできて一部連携が始まって、情報発信を高めるためにやるということまで来たが、そこから次のステップにどういくかという話だろうと思う。

- ・横のつながりで基盤ができてきていて、その中でさらに、フィールドミュージアムに入っている100何団体の全部を発信するのはなかなか難しい問題で、1つの事業でできるようなことではないので、この中でいくつかの突出するものをつくっていくというようなことをしていかないといけないのではないかと。

- ・新宿文化センターが地域のライブハウスと連携するみたいな形の音楽分野内の連携が少し動き始めていて、そういう発信をしていかないと。

- ・分野を超えとなかなか難しいし、逆に発信力が弱くなる場合もあるので、分野内で、東郷青児記念損保ジャパン日本興亜美術館が来年、ピルの高層階から地上におりてくるということがあるので、それを契機に、美術館同士とか何かでやるとか。例えば、ちょっと離れているが、佐藤美術館は若手の美術家の発掘にそれなりの役割を果たしてきているし、美術系の関係が1つ。今までクリエイターズ・フェスタとどういう関係をお持ちなのか、美術分野で何かおもしろいことを東郷青児記念損保ジャパン日本興亜美術館に仕掛けていただくとか、そういう2020年に向けて契機があって、実施するものをつくっていく。

- ・今は文化センターを軸にやり始めていて、それで美術系が何かできるかというようなことがあるのかなというのと、さっき、来年度からと言っていたが、パブリックアートを調査されるということなので、新宿区のパブリックアートがどのくらいあってとか、そういう連携を含めて、調査されてバーチャルで見られるようになって、どこに何があるとか、まずは分野間の連携を考えるようなこととか、そういうようなことができないか。

- ・あと、可能性があるのは演劇。演劇博物館があり、演劇系の連携というのもできるだろうと思っている。

- ・そういう感じに、軸になるものを考えてやっていかないと、全部が全部の、100幾つがこの発信基盤強化というのはなかなか難しいし、個々の能力もあるし、2020年

に向けて何か1つ成果を出せるようなものがつくれるといいのかなと思う。

- お伺いしたいのは、新宿文化ネットと四谷文化ネットが実質的にどういう働きをしているのかというのが見えないので、ただ集まっているだけなのか、どうなのか。東郷青児記念損保ジャパン日本興亜美術館も新宿文化ネットに入っているが、どういう連携が行われているのかとかというのが、もうちょっとわかるといい。どちらかというところ、ここは博物館、美術館系が集まっているのか、そうでもないのか。

- 漱石山房記念館も文化ネット入っている。

- それと、区の施設なので、1つの財団による管理なのだろうが、記念館同士で何かやっているのかどうか。漱石山房だけ広報するのではなくて、記念館同士でもうちょっとした集合的な広報とか。いろいろそういうグルーピングをしていかないと、議論が進まないかという、1つの切り口なのだが。そういう議論をすると、一般的な議論よりもいいのかなと思ったもので、ちょっとまずは第一感として。

- 確かに。今の新宿文化ネットについては何かあるか。

- (事務局) 今、文化ネットは、新宿駅周辺の文化ネットと、四谷文化ネットの2つあるが、それぞれ情報を提供していただいて、相互にチラシ等を配布しているというようなことを行っている。例えば、漱石山房記念館で各館のチラシを配布している。

- 漱石山房記念館から5分位のところに草間彌生美術館があり、相互に情報を提供している。草間彌生美術館にいらっしゃって、ついでに漱石山房記念館においでになる方も多くいるというようなデータがある。

- この文化ネットについては、現在のところ、年間2回ほど会議をし、情報を、それぞれ提供して周知をしている。7、8年前に1回、この施設間でスタンプラリーをやった。

- これはいつからできているのか。

- (事務局) 先ほどのスタンプラリーを行った年前後ということで、今、正式な資料を持っていないが、8年ぐらい前だったと思う。

- それも1つのやり方で、今の新宿文化ネット、美術なり音楽なり、一応東郷青児記念損保ジャパン日本興亜美術館などには中心になっていただくみたいな、それで、音楽は文化センター。

- 来る人の感じとして、何となくつながりがないと、つながらない。バラバラの分野だと、多分バラバラなネットワークがあって。

- 連携をどういう形でやるかというのは、知恵を絞る必要があると思う。

- それこそグルーピングできればツアーを、まち巡りなんかやっているではないか。そ

う文化施設間のツアーをつくるか、そういう形もできるだろうと思うし、そういうような体制を持たないと、多分チラシ配布だけでは。

- 具体的な方法を考えないといけない。

- 文化施設等の連携というと、なかなか難しいことではないかなと感じているが、ちょっと思ったことは、やっぱり連携するということの目的というか、何を指して連携していくのかというところの目的が大事なかなと思っている。

- 新宿区の多様性ということがテーマになっているので、多様な文化施設が連携することなのだと思うが、文化施設が連携すること自体が目的というよりは、手段ではないかなと思う。だから、連携によって何を達成しようかというところの設定を、どうしたらいいのかなと思っている。

- 例えば、文化施設というのは、地域に開かれた施設であるとか、いろんな文化施設として社会的な役割を果たすことが求められていると思う。最近国立美術館の館長になられた方から伺った話だが、美術館というのは、単に展覧会を開催していればいいということではなくてきているということをおっしゃっていた。

- 所蔵品がある美術館というのは、展覧会を開催することだけが目的ということではなくて、研究とか教育も含めて、アートと社会との関係にどうコミットしているのかということが重要なことだと思う。そのことに関しては、図書館も同じだと思うし、音楽でも演劇でも、あらゆる文化施設ベースの社会とのかかわり方というのが、問われているのかと思っている。

- そうなると、必然的にどんな社会課題に向き合っていくのかということになるのだが、個々の文化施設がそれぞれ目的を設定していくということも大事だが、多様な文化施設が今起きている課題に対して、どういう問題意識を持っているのかということも共有していくということも大事なのではないかと思った。

- 北欧の国立美術館が、メガトレンドということで、高齢化社会のことを取り上げており、私どももグローバルな課題だということを感じて、大学と協力をしながら、高齢者に向けたワークショップの開発を一緒に進めている。こういう高齢化社会において、アートがどのような役割を果たしていけるか、あるいは美術館がどのような役割を果たしていけるかというようなことについて、国内外の美術館の方からも大変関心をいただいているというようなことがある。

- 施設間連携の話に戻すと、新宿区内の意欲的な文化施設というのは、全部がというのはなかなか大変だと思うが、意欲的なというか、ポジティブな文化施設があると思う。そういうところを選考して集まっていただき、新宿区の事情に応じた社会課題というか、新宿区にとってこういうことが大事だということを、議論する場ができればいいと思った。

- そういう中で、共通認識になるような課題があれば、その課題に対して自分の施設はどう、何ができるかを考えて動いていく。あるいはほかの施設とどんな連携ができると、効果的なのかということも考えていくというようなことで、連携が具体化をしていくというのができるといいと思った。

・時間がかかる話なので、今すぐ、今年、来年という話でもないと思うが、少し活動ベースでの連携もしながらでいいと思うが、そのベースになっている、何をしようとしているのかというところの意識の共通化的な、共有をしていくというか、そういうことがステップとして大事なのではないか。

・直近のことで言うと、新宿中央公園に新たにレストランやカフェができて、大きく変わる。住友ビルも野外ステージ。西武新宿の前は、2022年に向けてだが、東急が大規模開発をするということで、今見えていないところが大きくなってくる。

・感じるのは、これ1つを、この数を並べると、コンシューマーにはトゥーマッチ。

例えば、成功しているかわからないが、神奈川県黒岩知事が、100か1,000か1万だったか、散歩道をつくれというように言っているが、我々も例えば海外を旅行すると、各メインの観光地というのは、必ずいくつかモデルの散歩コースというか、めぐりコースというのが提案されて、めぐっていきくと、いくつかの施設がつながっていく。

・つながっていくにしても、実はこの中で一番ここに入れてもいいのではないかなと思うのは、散歩とかそういうルートをめぐったときに、目印になるパーク、広場。海外では、いっぱいある。その広場に何か当たっていると。だから、新宿で言うと、アルタ前でも、バスタでもいいし、今度できる自由通路の真ん中でもいいし、やっぱりそういう広場的なところが、この施設をつなぐ集合場所なり何なり、休憩場所なり何なりの中に1つ入ってくると、つなげ方がもう少し楽しくなる。

・アトリエでもいいが、絵を見て、落語か吉本か見て、音楽を聞かだとか、そういうことだけではなくて、例えば漱石であっても、文化、芸術の秋の散歩コースだとすると、単に漱石山房記念館だけに行くのではなく、漱石公園もしくは生誕地に行くと銅像が建っているとか、雑司ヶ谷公園のお墓は豊島区で、新宿区ではないので。でもそういう情報として、お客様がめぐりたいというのは、きっとそういうことで、いろんなものがつながっていくのではないかな。

・そういうものをいくつか、モデルケースとして提案してあげるといような形で、例えば東郷青児記念損保ジャパン日本興亜美術館と佐藤美術館でもいいのだが、つながっていくといようなことで、そこにもしかすると、今、駅の近くは乗り捨てのレンタサイクルは、なかったか。四谷のほうに行くとかある。ああいうものを組み合わせて移動が楽になるだとか、必ず歌舞伎町の入り口では、インスタスポットとして、ゴジラと一緒に写真を撮るだとか、そうやっていきくと、何か楽しいフィールドになってくるのではないかなと。

・これから、そういう提案型として、人たちがそれぞれの楽しみ方をできる1つの提案というのか。都庁の上に行って景色を見るというのもいいし、マルイの屋上に行ってイングリッシュガーデンで休憩するというのも、新宿区の中で、あれだけのスペースはそうはないので、そういう意味での大きな連携とかアイデアというのが出てきながら、こういうものがつながっていくといようなことを考えるのは1つの手ではないかなと。

・そういう意味で、やっぱりこの中で欠けているのは、パークというか、広場というか。そういうものが、こういうものをつなげていく中での1つのポイントになっていくのかなと思う。

- つまりジャンルでつながるだけではなくて。ローマがそうであり、広場でつながって。
- そう、広場で。海外って結構広場でみんなつながっている。
- そこに噴水があったり。
- 銅像が噴水の中にあって。
- それが目印になって、では次に行こうかという。ローマの広場というのは、おもしろい。新宿では、どういうふうにつなげるか。
- そういう意味では、西口の思い出横丁も、いっぱい人がいる。写真を撮っているから。ああいうところもつなぎながらいろんな施設へ。もしかすると思い出横丁は新宿区の文化遺産。そこは今外国人がすごい。
- (事務局) すごく多い。あと、ゴールデン街も。
- そう、ゴールデン街。ここも散歩道として。だから、それはある種、広場の一種なのだが、そういうものがつなげると、こういう施設がつながって、歩く道、楽しい道。そのこのスポット、スポットに、写真スポットというのを提案していきながら、それをSNSにアップしていくということ。そんなイメージのことを考えて。
- なるほど。そういう通りが一種の広場になる、日本の場合は。
- 新宿区は多種多様な施設があって、文化施設もあって、もう何でもできるなど、お話を聞いていた。
- 漱石山房記念館に来るときに、ホームページからアクセスを見て来たら、写真つきで、右に行ってどうのこうの、小学校がある、公園があるとか解説があり、すごくわかりやすくていいと思った。
- 小学校6年生向けに、新宿文化センターで音楽教鑑賞教室を毎年やらせていただいているが、生徒数がすごく多くなってきているような気がする。
- 文化センターの大ホールがパンパンだったので、これ以上増えてしまったら1回でできないのかというぐらいな感覚で、青島広志さんに、指揮をしていただいて、解説もしていただいて、お話をして、演奏会だったが、子どもたちが本当に興味深く聞いてくれた。ただ静かに、寝ているふうでもなくて、本当に興味を持って聞いていると感じて。歌うコーナーがあったが、「ビリーヴ」を物すごく元気よく歌っていると。すごく新宿区の子もたちって恵まれていると思うとともに、学校教育されているのと毎年思っている。
- いろんなところで、そういう演奏会を行うが、やっぱり地域によってはおとなくして、

感動しているのだから、つまらないのだから、おもしろいのだから、全然わからない反応があるが、新宿区の子どもたちはすごく積極的に楽しんでいる感じがあって、それをやはりもっともっと生かして、上の世代になったときに、文化センターに来ていただけるようにしたいと思った。

- ・40周年記念イベントのドレスデン・フィルハーモニー管弦楽団の公演に行けなかったが、どうだったのかと気になる。多分完売はしていないのだろうなという。

- ・天候がちょっと悪かったが、客席はいっぱいだった。すばらしい演奏で、同じオーケストラがサントリーホールでも演奏されるかと思うが、その響きとまた違って、文化センターでも楽しめたので、違う楽しみ方ができたとは思っている。

- ・（事務）今、数字が確認できて、944人の来場者とのこと。

- ・子どもが、音楽教室を楽しませていただいた。先日は、文化センターで劇団四季も楽しませていただいたし、区内の小学生は美術館でゴッホを見させていただいたりとか、草間彌生美術館の休館日に中を1時間ほど楽しませていただいたりとか、非常に色々な体験をたくさんさせていただいており、子どもたちの心にすばらしい影響を及ぼす、本当にありがたい教育をされていると日ごろから思っている。

- ・区内の文化施設に関しては、新宿文化センターなどをよく利用しているが、6月28日に40周年記念事業もあり、先日は東京都の合唱祭があり、舞台上に立たせていただいたが、プロの方がする舞台で、実際にアマチュアが演奏できるステージがあるのは、非常に区民にとってもありがたい。もちろん区外の方にとってもありがたいことで、新宿区にはたくさんの区民ホールや文化センターがあり、やはり一般の方が文化、芸術というのを発信できる場所というのが、非常に大事になってくると思う。

- ・今後とも、そういったソフト面、ハード面で、区民がいつでも芸術、文化に親しんで、何か発信できて活躍できる場所というのを、非常に大事にさせていただきたいと思う。

- ・普段は東新宿から歩いて新宿文化センターに行くが、たまたま、新宿西口の方から歩いた。新宿文化センターの表示はどうなっているのだろうと思いながら見ていて、すごく残念に思ったことがあった。

- ・まず、ちょうど日清食品の前を渡るところの新宿文化センターの表示が、枯れたバラか何かに覆われてしまって、非常に目立たない。

- ・もう一つ、同じように歩いていくと、新宿文化センターの表示が木で覆われてしまっていて、とてもきれいとは言えない感じで、新宿文化センターの認知度を上げることが一つの会議のテーマだったと思うが、演目ももちろんだが、新宿にこういうものがあるという表示があることで、皆さんや、区外の方もわかりやすくなるかと思うので、認知度を上げるためには、まず早急に手を打っていただければと思う。

- ・本当に初めての方は、地図だけではなくて、周りを見ながら来る。地図は地図でわかるが、実際に動いてみるとわからない。だから、そこに看板があれば、安心する。それは大変大事なことだと思う。

・あと、情報発信に関して、新宿観光振興協会はフェイスブックで発信もしているが、「いいね」が、一向に伸びないと感じているのと、インスタで発信するという事は、いまだに行っていないが、毎回会議でもインフルエンサーに協力していただくという話が出ていたと思うが、実際どこまで、どういうふうに話が進んでいるのかということ、事務局にお聞きしたい。

・（事務局）新宿観光振興協会は、SNSで4月1日から英語版を出している。まず、外国人に情報を提供するという事で、先に対応している。Instagramの活用も増えてきているので、やはりこれからやっていかなければならないと思っており、時期や方法とかそういったのをタイミングを見て、考えていきたい。

看板の件は、すぐに対応する。

・40周年記念イベントのドレスデン・フィルハーモニー管弦楽団のコンサートを見て、とてもよかったが、いただいた資料の中に、文京区のシビックホール20周年記念リラシが入っていた。新宿区の40周年記念では、ペラペラのチラシが公演ごとにはあったが、文京区と比べてしまうと、やっぱり。高橋さんが来て、すごくいいのもやられるのだけれど、ぱっと見たときに、見応えは確かに。こんなにやっているんだと思って。40周年記念のちらしがつくられていたら。

・（事務局）まだ、記念事業の3つ目の名誉区民の競演会のほうも、内容はまだ詰まっていなくて。本当は、年度当初または前年度のうちに詰めたいとは思っていたが、時間を要して、そういった周知ができなくて。残念で、申しわけないところ。できればそうやって思っていた。

・文化センターでこれだけいろんなものを周年に向けてやっているのだというのが、文京シビックホールみたいなチラシだと明らかにわかるので、せっかくあれだけの演奏家を呼んできてやるに当たって、区民としても、ちょっと残念だったなというのが1つ。

・あと、新宿フィールドミュージアムの宣伝だが、やっぱりなかなか連携しながらというのは難しいかと思うが、私もいろいろな劇場と話をするとき、インスタ映えを考えて、来た人に発信してもらおう工夫をしているというのはどここのところもやっている。

・そうすると、こんなおもしろいのやっていたんだと思うと、次回からチェックしてみようかなという気になっていくので、参加団体が個々、連携するのはちょっと難しくても、インスタ映え的なもの、情報発信をしてもらおうという、その回数を繰り返すことによって、新宿区はこんないろいろやっているから、今度チェックしようという気持ちになるかなと思う。

・あと、今回この情報発信等の話を聞いていると、比較的外部の人に対してどう発信していくかというイメージをいただいたのですが、先ほどの子どもたちに文化センターに来てもらって、音楽を聞いてもらってということをする、子どもたちも文化センターが、全く知らない場所ではなくなるということもあって、やっぱり将来の利用者と

しての子どもを育てていくという目線も、常に持つておく必要があるかなと思った。

- ・この間、どこの区か地域だったか忘れたが、美術館の模造品を学校に持っていき、子どもたちに鑑賞させた。

- ・私の子どもは1回、美術館に連れていったが、静かにみんなで見ているのは僕には無理と言って、次に誘ったら、いいと言われてしまって、美術館に連れていけていない。

- ・損保ジャパン日本興亜美術館は学校で行っているの、そのときは多分前よりは楽しく見られると思うが、美術館で、大人がいっぱいいて、ちょっとすき間から見るような状況だと、なかなか子どもは興味・関心を持ってないような状態で、そうやってアウトリーチ的に子どもたちが見る機会を持つというのは、おもしろい試みだと思うし、そういうものを見ることによって、本物を見てみたいと思う子が少しでもできたら、やっぱり次世代に利用する人たちを育成できるチャンスにはなるかなと思った。

- ・連携というところでは、そういう要になるプロデューサーみたいな人が養成できていくといいとは思って、佐藤美術館さんが、わざわざ猫の絵をモチーフにした展覧会を行われていたりした。全部同じようには無理だと思うが、ちょっとした共通のもので、いくつかが連携できるとか、そこにあわせてうちではこんな取り組みをしているよという連携がとれるといい。猫の展覧会をやったときは、佐藤美術館にいらした方も多かった。

- ・猫自体が人気がある。でも、夏目漱石に絡めて猫の展覧会をやりますとかおっしゃっていたのは、おもしろい試みと思って伺っていたので、そういうクリエイターな、プロデュースするような人が出てくると、いろんな連携が、種まきができるのではないかと、思っていて、そういう人の育成なりができるといいと思った。

- ・プロデューサーというのは、イメージとしてはどうなのか。どっかの人か、それとも専門にそういう人を。

- ・新宿区にこれだけいっぱいあったら、専門の人でないと無理とは思いますが、先ほどの散歩道もおもしろいと思うし、ただ美術館とかも、展覧会の何年も前から準備しているので、急にここにこんな大きなお芝居があるから、これにあわせて何かしましようというのは、なかなか難しいとは思っているので、何かしらテーマを決めて、そのテーマにあわせたものでやっていってもいいのかと、思っていた。

- ・なかなか、この連携という言葉を見る限り、とても、片手間というか、ふだんの仕事をしながら連携というのを図るは難しいかと。それを専門の仕事というか、プロとしてやってくれる人が誰かいたほうが、連携は図れるのではないのかと、ちょっと思った。

- ・そのような場合のプロとしての立場というのは、どこでどういうふうになるのかというのは、大きな問題だと思う。

- ・区が雇うわけにはいかないだろうし、むしろ今のようなお話は大変大事なことだと思うが、それはいろんな情報を集めて、これは区のほうで考えるプロジェクトなのだろうと。漠然としてもいいが、こういうことがあり得るというようなことの上で、ジャンルによって考えていくというふうに、区のほうで考えていただいて、それをそれぞれの施設に連絡するという形ではないか。ちょっと、それは区で考えてください。

・本当にプロのプロデューサーをという、どこに位置づけるかというのは、大変難しいと思う、区としても。そういう役割ができそうな人、むしろいろんな情報を持っている人が、こことこの情報くっつけば、おもしろいことができますよ、ある程度前もってわかりますよというようなことを、いろいろ連絡するような形が、今の指摘だと思う。それで、区が何かそれを考えられるかどうか。あるいは財団も。

・（事務局）区で、いろいろ情報収集することはできるが、どのようにコーディネートしていただけるか。どんな方がいらっしゃるかが、難しい。

・むしろ、プロのプロデューサーにというのではなく、これについては、損保ジャパン日本興亜美術館にお願いしようとか、そのときそのときで、実際の委員、あるいはその施設に、これについてはこっちというような感じで、相談していくのがいいと思う。

・美術なら美術だし、音楽なら音楽。

・（事務局）音楽なら音楽というものがあるので、それによってコーディネーターを探していくというような形に。

・そうだと思う。子どものことならば、もう好きなようにやらせてもらおうとかで構わないと思う。やり方はちょっと考えていただきたい。非常に大事なご指摘だと思う。

・今お話ししたように、特に、いろんな文化施設関係がいっぱいあるが、うまく連携したほうがいい。その連携は、施設同士の連携もあるし、それから外国の人とのつながりをどうするかという問題と、それとの関連で情報をどういうふうにするかという問題、情報発信もいろいろ大きな問題があるが、誰にどういふ情報を提供するかということ、既にいろいろやっているけれど、行政でも問題があると。特に文化施設関係に関しては。

・連携に関しては、新宿区は本当にいろんなものがあり、どのように連携していくのが定まらないと、なかなか難しいのではないかと。

・例えば、2年ほど前に「君の名は」という映画がすごく流行り、須賀神社や四ツ谷駅とかいろんなところが出ているので、そういう流行りものに関して、何かしらのイベントを打つというのは大事とは思っている。

・美術館とかは、もともと計画をしているものなので、そこが難しいと思っている。でも、映画にしても何にしても、作ることがわかっているので、その段階の情報がもし手に入れられるのであれば、あらかじめ何かしらの手を打つことも可能とは思っている。

・今は、朝ドラの「なつぞら」か。新宿がちょうど話題になって、話題というか舞台になっているので。中村屋さんが。

・中村屋さんが何屋さんだったか、何か違う名前になっているが、中心になっていて、歌舞伎町のあたりが出てきたり、お芝居をやっていたりとか、そういうことをやっているの、皆様が関心を持っているときに何かしらのことができるといいというのが、今の段階では思う。

・ただ、継続的なことを考えると、やはり今のところは、各館、各館が単体で行ってい

ることが多いと思うので、この年度はここと一緒にやりましょうということ、あらかじめ計画を立てるということが必要かとは思。その中心になる方がどうするかというところが問題とは思。どなたか中心になって、この年度は、あるいはこの前半はこうすることでやっていく、ここを周るとこういふことがあるとか関連づけると、A館を周ったら、次はB館に行ったらこういふことができるのだ、この神社にも行けるのだ、映画ともつながっているということがあると、どんどん広がりができるので、そんな企画がもし実現するのならいいが、これは希望的観測でもある。

- ・それから、その発信に関して、やはり足を運ばれた方が一番話をどんどん広げてくれるので、いかに楽しんでもらえるかというところが、すごく大事と思う。

- ・たまたま行った人が、実はこっちにもこんなものがあるのだということがわかるようにするのは必要だと思う。

- ・新宿でこんなことをやるということも必要だが、中村屋も美術館があり、行った人が、実はほかにも何かあるのだということがそこでわかってくるとか。中村屋だと、逆にカレーを食べに行ったら、美術館があったとか。

- ・外国の人は随分、和食の文化に関心があり、居酒屋に行きたいとか何とかということがあるようだが、それと実は文化施設がつながっている。その情報をどう提供するか。難しいことだと思うが、自然にみんなの間で、和食を食べながら話が出るようにするかというようにできると、おもしろいと思う。

- ・情報発信の基盤整備というのは、何かシステムをつくるよりも、具体的にどうやってやったらいいのだろうということ。それを我々なり、それから区は区でお手伝いができるかどうかということを考えていくのが、これから重要だと思う。

- ・施設間の連携の具体的な取り組みについて。例えば、會津八一記念博物館も、どの分野に入れるかは難しいと思う。資料館に入るかもしれないが、そういう問題ではない。資料では1つのまとめ方が示されていると思うが、資料のように、美術なら美術の分野でまとめるとしたら、その館の学芸員を中心とした地域交流が必要だと思う。

- ・そういう中で、各施設が何をやるのか、そういう情報が集まり、中心人物が出てくる。その方と区が接触することを考えられたら、共通の問題点も把握できるのではないか。

- ・美術館と漱石山房記念館のような文学館という違う組織の連携の中では、例えば、文学者の美術展とか。例えば、林芙美子記念館に美術的なものがあったら、それを美術館で展示するとか、美術館同士で利用し合うということもいいのではないか。文学館としてばかりではなくて、美術館的な施設として、そういうことも考えてもいいのではないか、連携については。

- ・先ほどゴジラのもニュメントだが、新宿区のマスコットを何かをつくったらどうか。

- ・（事務局）亡くなられた名誉区民・やなせたかしさんが生前から、新宿の安全安心キャラクター「新宿シンちゃん」を提供していただいた。着ぐるみもいろいろなイベントで活用されている。

- あまり見ないものだから、どういうところへ行けば。
- (事務局) 安全安心キャラクターなので、地域のパトロールとか、以前はふれあいフェスタとか。
- もっと広く使ってもいいのではないか。
- そういうもの、核になるようなものがあると、宣伝にはいいかなと思う。宣伝について、新宿シティハーフマラソンがある。これは非常によく知られているので、宣伝に使うことを意識して。
- この資料は非常に現状把握と現状分析がよくできているが、それを実際どういうふうにして実行していくかという、その問題は、大元は新宿区の文化観光課が担当すると思うが、実際、実施は財団の方でというような形か。そういうような、実際どこがどうしてやるのかということ、把握して考えないといけないなと思った。
- もう一つ、非常に漠然とした話だが、新宿区の多様性ということがよく言われるが、多様性の中で、落合とか四谷とか神楽坂とか新宿駅前とか地域を分けてそれぞれの違いを強調しているが、それを考えるときに平均的に考えるのではなく、新宿と言えば新宿駅前が、特別。その特異性ということも考えていかなくてはいけないと思う。そういう抽象的な話。
- 駅前は難しいが、新宿駅の場合には、東口と西口とがあって、それぞれ違うし、西口は西口で1つおもしろい駅前。思い出横丁がある。そういうのは、特に外から来た方へ向けては、どう、うまく連携させるといふか。あるいはどっかに、イベントの話もあるが、つなげるかという問題。
- 確かに文化施設もいっぱいあるが、ただあちこちにあるという。新宿は広いから、実際動き回るときにどうすればいいか。イベントによっては、動き回りやすい方法を考えてもいいと思う。それは展開として、公共交通機関も使った動き、移動のインフォメーションうまく提供するとか、いろんなことも考えられると思う。
- そういう多様性があるから、実施するのは大変なことなので、やはりある程度ターゲットを絞って、今年は何とか、そういうふうにはやっていかざるを得ないのではないか。
- (事務局) 1点目の施設間の連携の1つとして、区内ではないが、例えば、世田谷文学館さんで林芙美子展をやっていただき、新宿区から資料を貸して文学館の連携をした。
- 区内だとどうしても区立になるが、歴史博物館では、漱石と子規という特別展を、他の館と連携してやった。民間の施設と今後どう連携をしていくか、どのようにすればできるかというのを考えなければならないと思う。
- 散歩道だが、漱石の散歩道というのを出して、まず漱石山房記念館、早稲田駅近くにある誕生の地。神楽坂によく漱石がいらしたということで、例えば相馬屋さんは漱石の原稿を売っていたので、そういった視点で周る。あとは理科大が『坊っちゃん』の舞台

なので、そちらを周るような散歩道のチラシもつくった。

- ・新宿観光振興協会では、やはりブロックに分け、新宿駅周辺、早稲田、落合とかの散歩道をホームページ上で、ここにはこのモニュメントが、こういう館が、お寺があります、お昼はここで食べてとか、30年の歴史のあるお店とか、いろいろ民間の情報もあわせて載せている。

- ・あとは、東南口の新宿観光案内所で、落合、高田馬場・早稲田・大久保、新宿駅周辺、神楽坂、四谷の5地域のマップを6カ国語でつくって配布しており、外国人の方もかなり多くいらっしゃるの、そういったPRも。

- ・先ほど説明した文化財情報を入れた観光情報検索システム。こちらでも回遊ルートを今年度中に何ルートかつくって、見られるようにしていきたいと考えている。

- ・それはいい。いろんな文化施設がたくさんあって、ただあちこちに散らばっているということだが、逆に、うまく散歩道をつくるとか、さっきの、通りを広場的に整備するとかというような考え方ということも含めて、ついでに、こういうお店がある、というやり方が考え得ると思う。あと、特に専門部会のときに、何かそういうお話はあったか。

- ・専門部会で若干出たが、資料を見て、皆さんの意見を伺って、散歩道みたいな、かなり区とか観光協会で地域的な取組みはやっているが、やはり専門的なところが弱い。

- ・例えば、外国人ということはあるかもしれないが、国内ということと言うと、資料を見てみると、美術が一番専門性が高いし、集客度も高い。

- ・駅の近くに東郷青児記念損保ジャパン日本興亜美術館、中村屋サロン美術館などがあって、今度中央公園に何かできるとか、いうことがあるので、具体的に何か1つとんがらせないといけないのだろうと。多面的な広がりは大分手を打ってきたということがあるので、今は、絞ると。

- ・例えば2020年までにできるかわからないが、新宿区の美術館及び美術を大々的にアピールしましょうと。その中で、連携をつくっていくみたいな、そういう具体的な展開を図らないと、全体で情報発信、情報発信と言うと、物事が進まないというような気がする。

- ・美術が、一番学芸員とか専門性の高い人たちが詳しい分野なので、ここら辺の連携を図っていく。あるいは情報発信と、両方。

- ・あと、クリエイターズ・フェスタをやってきているから、それも今のままでいくのではなく、もっと美術館連携を明確にしていくというのは1つ。一番この中ではつながりやすいし、専門性を持っている。それと個々の施設が公開性を持っているというのが1つと。

- ・次が、やっぱり文化センターを軸とする音楽なんかを1つ考えるというようなことを少しやれると、そこから入っていくとか。それと、あと文学もあるであろうが。

- ・全部手をつけても効果が薄いし、薄くなってしまおうかなと。今までできた基盤を、さらに発信力を高めていくということだったら、そろそろ絞った何かを重点的に、来年度予算、間に合うかどうかかわからないが、オリンピックに向けてやるのかなというような。

・美術関係は本当にいろいろとありがたい。東郷青児記念損保ジャパン日本興亜美術館が新しくオープンするのは来年の5月か。ちょうどオリンピックの直前で、来年は特にオリ・パラで、外国の方も日本の方も、あちこちから来られると思う。そのときに連携もいろいろな施設が入っている。

・例えば、明治神宮外苑聖徳記念絵画館は新宿区内。これも外国の人には、非常に興味があると思うが、オリンピックのときは、あそこがオリ・パラの何かの施設になって見られない、逆に。

・オリンピックの最中は、結構難しい。

・オリンピックのときは、逆に美術館には人が来ない。だから、明治神宮外苑聖徳記念絵画館があるということを経験した人に。

・だから、我々のビッグイベントはオリンピックが終わってからやる。

・やり方をどういうふうに、情報をどういうふうにするかということを考えていくことが必要だろうと思う。そういうことも含めて、いろいろ今のお話、委員の中で少し。

・東西自由通路ができるのは、2020年か。

・（事務局）完成ではないが、東京 2020 オリンピック・パラリンピック前に開通する。

・その中に、銀の鈴みたいなのができるのかどうか。

・そうだと新宿駅周辺が、かなり注目を集めるような。美術を中心に何かやって、駅周辺で。

・そういう意味では、恐らく、スポットで通用するつながりと、永遠に通用するつながりの企画というのが1つあって、永遠につながるものというのでは、街道。青梅街道、甲州街道、旧街道の道というと、いろんな施設に寄れる。

・思い出横丁は、旧青梅街道と小さく大ガードの左側に書いてある。目立たなく。ああいうのをもっと目立たせていくと、歩いて巡りながら、四谷の方から歩いて主要な施設だとか、歴史の施設だとかを巡りながら。

・追分の交差点の、ちゃんと道路のところに、マンホールみたいなものがある。追分だんごもある。そういうふうにしてつなげるということも、きっとある。歴男も歴女も、多分これからもいらっしやると。

街道の道というのは大事。それは、逆に言えば、皇居に真っすぐ行くわけだから。

・その沿道沿いに、多分、いくつかの施設は点在している。美術愛住館もそうだし、そ

ういう街道で誘導しないと、わざわざ新宿歴史博物館には行かないなんて言ったら怒られてしまうが、やはり誘導するには、そういう発想でいかないと。

- 新宿歴史博物館は夏休みとかは、子ども向けのイベントもかなりやっているの、そういう単発だったら行くと思うが、コンスタントに行くかといったら、そうではないという感じなので、そういうところも頑張っているということを知っておいて欲しい。

- 子どものイベントということか。それはちょっと別の感じだが、やはり重要な。

- 新宿歴史博物館に行くと、新宿の昔の地図が公開されている。だから、歴史の街道へ行くということ、新宿歴史博物館に寄るとするのは、1つの理由になる。

- 小学校でも新宿歴史博物館に行ったりするので、小学校の教育の中でも、やはり新宿歴史博物館とかだけでなく、何かつながりを持って、回っていくような企画があれば、子どもも自分が住んでいる区を知ることができると思うので、お願いしたい。

- 品川区で東海道を歩くというパンフレットを出していて、東品川から歩ける。歩くというお話が出ていたので、そういうものをつくってもいいかと思うし、先ほどのマラソンの関係で言うと、表参道のWomen 's Runがあり、結構女子に人気がある。明治神宮の普段入れない道を入ったりしてということがあって、結果的にいろいろなものを見ながら、歩く人もいるし、そんなので、マラソンと言っても、歩けるぐらいの時間帯で、完歩できればというイベントにつなげてもいいかという気もする。

- それはどこがやっているのだろう。

- それは企業が入っていて。

- 区がやっているわけではないのか。

- 区ではないかもしれないが、冠としては、表参道。

- ウィメンズプラザか。国がかんでいるのではなかったか。

- 女子の間で結構はやっている。

- いろいろと知恵を出していただくことにして。皆様のご意見で、区として何ができるか。実施するよりも、むしろつなげ方をどうするかということが大事だと思う。おもしろいアイデアがいっぱい出てきたが、その中でできること、できないことは十分あると思う。できることも、すぐできることも大事で、時間をかけながら、見据えてやっていければと思う。

では、本日の議事はここまでにしたいと思う。ありがとうございました。

3 事務連絡等

第4回目の会議は10月～11月頃の開催予定とし、日程や会場等については別途事務局から連絡することとした。

4 閉会

会長の挨拶をもって、午後4時に閉会した。